前九年合戦

前九年合戦は、永承 6 年（1051）から康平 5 年（1062）にかけて東北地方であった安倍氏一族と朝廷から派遣された源頼義・義家父子ら官軍との戦いです。

安倍氏が勢力を国府多賀城（宮城県多賀城市）の管轄する領内にまで広げると、国府と安倍氏の仲は悪くなりました。多賀城とは 8 世紀頃、朝廷の蝦夷制圧の拠点として設置されました。胆沢城が奥六郡を、多賀城が奥六郡より南の領域を管轄した。永承 6 年に鬼切部の戦いが起こり安倍氏は陸奥守・藤原朝臣登任ら国府軍に大勝しました。

前九年合戦絵詞「重陽の節句に安倍貞任、将軍を奇襲する」
国立歴史民俗博物館　所蔵

その後、源頼義は陸奥守兼鎮守府将軍に任命され、安倍氏を攻めましたが、なかなか倒すことはできませんでした。

康平 5 年（1062）、頼義の要請を受けた出羽地方の豪族・清原氏が加勢し、ついに安倍氏は厨川柵で滅びました。このとき、宗任は捕えられ、九州へ流されました。

592年	710年	794年	1185年	西暦
飛鳥・奈良		平安	鎌倉	時代
6〜8世紀		9〜11世紀	12〜13世紀	

宗任

わが国の梅の花とは見たれども
大宮人は如何言うらん

『平家物語　剣巻』より

衝立『北梅の図』　尾竹國観作
一ノ倉邸（吾郷楳荘）所蔵

蝦夷は花の名など知らぬだろうと侮辱した都の貴族が梅の花を安倍宗任に見せた際に、宗任が詠った歌。歌で答えた宗任に都人は驚いたといいます。

■所在地　岩手県胆沢郡金ケ崎町西根
　　縦街道南、原添下、鳥海、二ノ宮後
■交通案内
　電車 /JR 金ケ崎駅より徒歩約 20 分
　バス / 岩手県交通下城バス停より徒歩約 10 分
　車 / 北からは北上金ケ崎 IC より 10 分
　　南からは水沢 IC より 5 分
■問合せ先　金ケ崎要害歴史館　TEL 0197-42-3060

国指定史跡

とのみのさくあと
鳥海柵跡

奥六郡の主　安倍氏一族の拠点

安倍氏一族

10世紀後半になると、胆沢城（奥州市）の律令体制は崩れ、胆沢城の在庁官人（郡司か）であった安倍氏が力を持つようになり、安倍頼良は「六箇郡（奥六郡）の司」と呼ばれるほどに力を持ち、北上川流域に 12 の柵を置いて奥六郡を支配しました。

在庁官人とは平安時代中期から鎌倉時代に、地方の役所で実務に従事した官僚で朝廷から遣わされた国司が現地で採用したとされます。

安倍　頼良

鳥海柵の主・安倍宗任

宗任は奥州藤原初代となった清衡の叔父で、娘は二代基衡の妻で、三代秀衡の母です。安倍氏と鳥海柵は奥州藤原氏の前史そのものであり、平泉文化の礎となる重要な文化遺産です。

金ケ崎町教育委員会

奥六郡とは

胆沢城造営から 10 世紀半ばまでに、陸奥国中部に朝廷が置いた郡の総称。6 つの郡とは、伊沢（胆沢）、江刺、和我（和賀）、斯波（紫波）、薄縫（稗貫）、岩手郡。現在の奥州市から盛岡市にかけての地域をいいます。

奥六郡の配置
10 世紀半ば頃

鳥海柵跡

鳥海柵跡は、北上川と胆沢川の合流点から西北西方向に約 2.5km で、胆沢川北岸（金ケ崎段丘の端）に位置します。比高約 10m の段丘縁は、自然の沢による３条の開析谷で４つの台地に分割されます。当地より南東方向に約２km で、南岸には鎮守府胆沢城があります。胆沢城は、坂上田村麻呂が築城した城で、朝廷による蝦夷政策の拠点として鎮守府が置かれました。

鳥海柵は、平安時代の前九年合戦を記した軍記物語『陸奥話記』に登場する安倍氏一族の柵（城）の一つです。鎌倉幕府の記録書『吾妻鏡』では鳥海三郎宗任（安倍氏当主・頼良の三男）の柵とされます。『陸奥話記』には、鳥海柵は安倍頼良が亡くなった地で、清原氏の加勢で柵に入ることが出来た源頼義が「なかなか姿を見ることが出来なかった鳥海柵に入ることができた。」と感激したと記されています。また、奥六郡を治める胆沢城が隣接することから、安倍氏にとって最重要拠点であったと考えられます。

本遺跡は、昭和 33 年（1958）から発掘調査が行われました。その結果、７～８世紀（胆沢城造営以前）、９世紀後半～ 10 世紀中頃（胆沢城統治期）、11 世紀前半～中頃（安倍氏統治期）、12 世紀前半～後半（奥州藤原氏統治期）の 4 期に亘って利用されていたことが確認できました。本遺跡から最も多く検出された遺構や遺物の時期は、11 世紀前半～中頃で、前半と中期に分けられます。

鳥海柵跡全景

前九年合戦絵詞「安倍頼時、将軍頼義に駿馬・金宝を献ずる」
東京国立博物館　所蔵

竪穴建物跡出土

9世紀後半（胆沢城統治期）

墨書土器　「五保」　右
緑釉陶器　「唾壺」　中
土師器　「香炉蓋」左

船越明神社

■11 世紀前半
鳥海柵の始動期

縦街道南区域の掘立柱建物跡は東西２間、南北３間の４面に廂が付く大型の建物です。

大型建物からは官人が身に着ける銙帯金具の鉸具、胆沢城にもみられる水晶玉も出土しました。安倍氏が中央政府の政策転換により胆沢城配下の在庁官人として、胆沢城管轄領の奥六郡を統治しはじめた時期と想定されます。

縦街道区域大型の建物跡出土遺物
（土師器杯・高台杯・小皿・柱状高台、鉄製品、土製品、水晶玉）

■11 世紀中頃
軍事的性格を強めた館へ

原添下区域南東部には四面廂付と四面廂なしの掘立柱建物、竪穴建物３棟が配され、周囲を囲むように L 字状の堀が掘られていました。

鳥海区域には、北と南の沢を結ぶように大規模な直線状の堀が掘削され、大規模な方形区画（南北約 140m、東西約 170m）が造られていました。

大規模な堀を造営して区画した台地に櫓や柵を設け、軍事的性格を強めた館になったと考えられます。

原添下区域東部　竪穴建物跡出土遺物
（土師器杯・小皿）